

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200378
法人名	有限会社 グッドライフ
事業所名	グループホーム てんとうむし
所在地	鹿児島県霧島市国分上井903番地2 電話 0995-47-4672
自己評価作成日	令和3年9月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年10月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営者の出身地ということもあり、地域住民の方は顔なじみの方が多く近隣の方の入居もみられている。昨年からのコロナの影響があつて参加できていないが、地区の運動会、夏祭り、神社の祭り、老人クラブとの交流、等は開設以来継続していた地域との交流である。近所から野菜を持ってきて下さったり、畑まで取りに行ったりすることもある。たくさんあるときには従業員にも分けてあげてね。と言われ出勤しているスタッフにも持って帰ってもらうこともあります。手作りのちまきをお世話になっている方に配ったり、誕生日会があるときは近所の高齢者に差し入れすることもあります。ホームには広い花壇と畑があり、時には散歩途中の人が花を見せてと来られたり、畑で実ったみかんをあげたりして交流を図っています。利用者さんも車いすのまま自由に庭を散策したり花を摘んで花瓶に生けたりされることもあります。ホーム周辺は環境がよく室内からでも田んぼが見え、田植え 風になびく稲穂 稲刈り、フェンスに止まる小鳥、近所の猫等、景色を見ながら利用者さん動詞で話がはずむことがあります。

- ・当事業所は、旧国分市郊外の田園風景が広がる静かな集落に立地し、コミュニティ広場や神社に近い場所にある。コロナ禍の為地域との交流が困難な時期であるが、住民から野菜の差し入れを受けたり、事業所からも手作りのあくまきや弁当を配るなどして近所との交流を大切にしている。
- ・入居前からのかかりつけ医の受診を支援し、受診には日常の状況を把握している管理者が同行することで情報提供が的確にでき、家族が受診同行の際は状況報告書を提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・コロナ禍で家族の面会も制限されているが、LINEでの写真や動画送付で近況報告を行い、家族との繋がりが途切れないように努めている。
- ・代表を始め管理者・職員は、利用者が自然に恵まれた環境の中で持てる能力に応じて自立した生活ができることを目標に支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ホームのてんとうむしや会社名のグッドライフには開設者の思いが込められていてホーム内に開示している。採用時にはその思いが理解できるように説明している。</p>	<p>理念は重要事項説明書に記載すると共に玄関・ホールに掲示し、採用時に理念と開設の思いを研修している。職員がケアで迷った時は理念に立ち返るようにしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>コロナのためホーム外の行事は行っていないがそれまでは地域の運動会、夏祭り、文化祭、老人クラブとの交流、神社の祭り等参加していた。時には野菜を持って来られたり畑まで取に行くこともある。</p>	<p>コロナ禍の為に地域行事は自粛しているが、地域住民からの野菜の差し入れがあり、事業所でもあくまき等を作った時には近隣住民に配る等して、地域との交流を大切にしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>ホームの前には地区の公園がありほぼ毎日高齢者がランドゴルフをされている。何か緊急なことがあったらAEDを持って駆けつけるので知らせて下さいと声掛けしている。心肺蘇生の研修をしたこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年からのコロナの為委員に集まってもらったの会議ができず資料の配布のみで終わっているが今までは委員からの要望等には可能な限り対応していた。</p>	<p>コロナ感染防止の為に書面開催とし、資料に写真を添えて市には持参し、その他の委員には送付し、事業所の近況を伝えるとともに、情報収集や意見交換に努め支援に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>家族とのトラブルが生じた場合はきちんと記録を残し随時市の担当者に相談して対応している。利用者の状況や家族との関係性は今までは推進会議で報告していた。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議資料持参時や報告・相談に出向いて連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築いており、家族からの相談を受けて生活保護受給に繋げた例もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の研修で勉強したり、スタッフも拘束はよくないという認識を持っている。どうしても対応困難時はその人の行動を観察して一緒に散歩に行ったり本人の後を付いて行ったりして落ち着くのを待っている。玄関は施錠せずセンサー反応があったら様子を見に行くようにしている。</p>	<p>指針が有り、委員会は不定期に、勉強会は年3回実施している。申し送り簿で職員間の情報共有に努め、転倒防止のためのマット購入やベッドの高さ調節で拘束防止に取り組んでいる。施錠はせず、外出希望の場合は同行し散歩等の対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修で勉強したり、テレビや新聞等での報道を見て職員会議や休憩時間等で話題にあげ話し合ったりしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修での勉強の機会を設けるようにしている。現状では成年後見制度を活用するような事例はないものの必要に応じて対応していくつもりである。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は家族とホーム側と同じ契約書を見ながら説明している。途中では何かわからないことはないか、確認し疑問を持ったままにならないように気をつけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ感染防止のため面会を制限しているがそれまでは自室内でゆっくりできるようにお茶を出して「何かないですか」とこちらから声を掛けるようにしている。</p>	<p>本人には、日常の会話の中で要望等を聞いている。家族の来訪時に要望等を聞くようにしている。家族会でアンケートを実施していたがコロナ禍の為に開催できず電話等で思いを聞き運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の職員会議内においてスタッフからの要望、意見を聞くようにしている。対応可能な要件についてはなるべく早く対応している。</p>	<p>お茶の時間や月1回の職員会議時に職員からの意見等を聞いている。備品の修理・購入希望は即対応している。個別相談は管理者が受けて対応し、働きやすい勤務体制等の配慮を行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務内容や年数、貢献度等考慮しながら給与の検討、本人の就労可能な条件や希望を配慮した勤務表の作成を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの経験年数や技量に応じた研修の提供や個人がいつでも勉強できるように研修で用いた資料の配布を行っている。資格取得希望者には勤務表をやりくりして対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>霧島市の地域密着連合会において連合会で働くスタッフどうしと一緒にスポーツを楽しむ企画がありその際はスタッフに参加希望者を募って希望があれば参加できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族による見学時には可能であれば本人を遊びに連れて来ていただき早く馴染の関係が構築できるように促したり時間をかけてアセスメントしたりしながら情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の一番困っていることや要望等じっくりと傾聴することで少しでも思いを吐き出しやすい雰囲気を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報を収集する中でグループホームより他の種類の施設や病院の方がいいと判断した場合はその利用者にとって一番良いと思われる施設を進めたり紹介してつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況や能力、危険度を判断して一緒に洗濯物を干したり畳んだりしている。又利用者の語らいや危険を伴わない助け合いは見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス計画書の中にも家族の支援を求める記載をしホームばかりの介護ではなく一緒にケアをしていくようにしている。コロナの為面会等の制限をしているので直接の介護は断っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後は友人や知人への面会の制限は特別な事情がない限り制限はしていない。また地区の行事にはなるべく参加して地域とのつながりが保てるように支援している。	コロナ禍の為、家族との面会をデッキや玄関で短時間実施しており、事業所からLINEの動画等で近況報告を行い、関係が途切れないように努めている。ドライブ途中で知人と会って話すこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や危険の無い支えあい等はスタッフ手を出さず見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも時には状態を聞いたりして連絡をとることもある。又家族の状況に応じて時々訪問し話をしたり食事の差し入れをすることもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時のアセスメント、その後の変化時における計画書の見直しを行いケアの内容を状態に応じて変えている。その際も本人への声掛け等を行い了承を得てから行っている。	入浴等の個別ケア時に、本人から思いを聞くことが多い。困難な場合は、家族や入居前のサービス事業者からの情報を聞いたり、日常の関わりの中から推測し職員で本人の思いを話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に十分なアセスメントを行っている。又入居後においても知りえた情報は申し送りノートを活用して情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時には心身の状態が違う事がある為スタッフ同士が声を掛け合って本人に無理のない対応を行っている。又普段と違う行動がある場合は観察し見守っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は家族や本人の要望を確認しその要望になるべく沿った計画書を作成している。モニタリングにおいては職員会議や普段の気付きの報告も参考にしながら家族の思いも確認して行っている。本人とも何気ない普段の会話を参考にしている。	本人・家族の要望を基に、申し送りや職員の意見を聞き課題分析して介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、状況変化時や認定期限時等に現状に即した介護計画に見直し施設での快適な生活ができるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の申し送りや全体記録、個人記録等活用し情報の共有を図るとともにその情報や本人の状況を考えながら計画を見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居により関係が持てた高齢者や地域の独居高齢者に対して食事を持って行き安否確認をしたりすることもある。単発的な配食的なものとする。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>時には住まいの辺りや畑の周辺をドライブしながら近所の知人との会話を楽しんでもらったりしてホームの中の人ばかりではなく外部の方との交流ができるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時の面談時においてかかりつけ医をどうするかを決めている。ホームの都合でかかりつけ医を変えることはなく今まで診ていただいていた主治医をそのまま継続して利用できるようにしている。</p>	<p>契約時に希望するかかりつけ医を確認し、受診時は管理者が同行支援し受診後は家族へ報告している。月2回の往診もある。家族が受診同行する場合は、状況報告書を添えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時、受診時等は可能な限り管理者が立ち合い普段の様子の報告をし、必要であれば家族にその内容を伝えている。管理者が受診に同行できないときは情報提供書を持たせている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>往診に来て下っている病院関係者とは診察時の立会いで関係づくりをしている。又お願い事などをする時には病院まで出向き依頼をするようにしている。退院まじかのカンファレンスには立ち合い家族の安心につなげている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>心身の状態を見て今後の家族の考えを確認したり早期にいざという時のために今のうちから考えておかれるように話をしている。身体レベルの低下によるホーム内での介護が困難になった場合は特養等の施設を紹介し心配のないようにしている。</p>	<p>本人の状況を家族と話し合い、重度化等の場合は医師の説明を行い、家族の意向を確認し意向に沿って支援に取り組んでいる。家族の協力を得て看取り介護を実施した事例がある。家族の意向で医療機関や老人ホーム等の施設へ繋いでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>心肺蘇生の研修やAEDの使い方など勉強している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回の火災により避難訓練を実施しその内の一回は夜間を想定している。又水害時の避難訓練としての経路を実際車を使っての計測も行った。非常時は非常ベルを作動させ近隣者の支援が得られるように外部に向けた設置がしてある。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、1回は消防署の立ち会いがある。土砂災害危険地域に含まれており避難計画書を提出している。非常通報装置に近隣住民を登録し、外部への非常ベルも設置して住民の協力体制を築いている。非常用の備蓄は、缶詰・ラーメン・米・水等を確保し、かまど・ガスコンロもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室への入室の際は声をかけてから入室するようにしている。個々の性格もそれぞれである為その人の理解力にあわせて対応している。	馴れ馴れしい言葉遣いは避け、声掛けしてから入室している。排泄・入浴・更衣介助時の羞恥心への配慮など、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で思いを表現できる方についてはその思いが実現できるように支援しできない方についてはもし自分だったら、という思いで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の流れは決まってはいるがその中でも時間を入れ替えたり順番を変えたりして対応している。又様子を見ながら休みませんか、トイレに行きませんか等確認をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分でできる方は自由にしている。そうでない方については好みのものを選んでもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には食べたいものを聞いたりしている。嫌いな食材が中心になるようなメニューの時は代わりの物を提供したり量を減らし別の好きなものの量を増やしたりして調整している。	野菜等の旬の物を調理し食事を提供している。衛生面への配慮から利用者の手伝いは食事以外のものをしてもらっている。誕生日のケーキや行事食・庭の果物・自家製の梅酒等、季節毎の楽しみを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については摂取量がわかるように表をつくっている。食事の摂取量についても個人差がある為量の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員歯磨きを行っている。自分でできない方は必ず担当スタッフが付き添いケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	決められた時間ごとにトイレに座っていただくようにしている。概ね排泄のリズムがわかっているため暫く様子を見ながら座ってもらったりしてなるべくトイレでの排泄の回数が増えるようにしている。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、時間毎にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援している。パット等の排泄用品は個々に応じた適切な物を使用し、夜間のみポータブルトイレを利用する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでいただいたり食事に繊維質の多い食材を用いたメニューを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	概ね入浴の時間は決まっていますがその時間の中において順番を変えたりして本人が入浴したくなるように声をかけたりして対応している。又当日どうしても入浴されないときには翌日に回すなどしている。	隔日を基本に、本人の状況により週2回の入浴を支援している。必要時は2人介助を行い、安全・安心に入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる場合は無理強いせず、声掛けを工夫したり翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を観察して部屋で休んでいただいたりしている。皆がいるところがいいと言われる時には畳に敷物を敷いて横になってもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの薬の説明やお薬の説明書を読んで注意すべき事など把握するようにしている。普段と変わったことがあれば主治医に相談したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の身体レベルや危険性に問題がなければ本人が希望する事の殆どをしていただいている。危険と思われる方はスタッフが付き添い共に作業するようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近隣であればスタッフの付き添いで散歩等行っている。現在感染症蔓延の為外部の人との交流を制限しているが今までは家族とともに外食したり、自宅に帰ったりされていた。又人との接触を避けるために車でのドライブをすることもあります。</p>	<p>職員と一緒に近隣の散歩を行い自然の環境や季節の変化を感じたり、近所の人との挨拶や人の関わりを大切にしている。コロナの感染予防の為、家族との外出を自粛し、個別に車で外の風景をながめたり数人のドライブで自宅付近に出かけ、コスモスの花見物をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>どうしてもお金を持っていないといけない方については少額のみのお金をお願している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在は手紙を書かれる方はおられないが電話での会話は制限なくつないでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外の景色の移ろいがよく見え冬には暖かな日差しが入り明るいしつらえとなっている。時には庭を散歩した利用者が摘んだ草花を生けたり季節の行事にあった飾りつけをしたりしている。必要に応じて空調を利用し快適に過ごせるように配慮している。</p>	<p>天井が高く天窓があり日当たりが良く明るい。外の景色を楽しめる造りである。窓を少し開けて換気に努め、適度な環境に調節している。室内は季節の飾り付けを行い、利用者が畳スペース等の好みの場所で居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>概ね利用者さんは食堂の自分の席で過ごされているが時には廊下のソファに座って外を眺めたりされています。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内のベッドと箆笥以外のものは個人の持ち込みのものである。本人の大切にされているもの等持って来られています。好きな歌手のポスターを貼ったり人形を飾ったりされています。</p>	<p>居室にはベッドやタンス・エアコンを備えている。本人が使い慣れた寝具や大切な位牌・家族写真・人形・ポスターを身近に置いて、居心地良く過ごせるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー対策がしてある為車椅子でも自由に移動ができます。自室入り口には名前と写真が貼られわかりやすくしてあります。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない